

	日	時刻	名前	所属	タイトル	講演時間 (分)	制限	時間合
	2	14:00	谷畑勇夫	RCNP	会議の目的など	10		15
1			緒方 一介	九大院理	核反応論研究の現状と展望	35		55
2			下浦 享	CNS	核反応の新たなプローブとしてのRIビーム	25	2	85
3			桜木 弘之	大阪市大	核反応に用いる核間相互作用モデルの現状と課題	40	2、3	130
4		16:30	古本 猛憲	京大基研	微視的光学ポテンシャルの不安定核ならびに高エネルギー領域への適用	30		35
5			蓑茂工将	九大	Microscopic approach to scattering of unstable nuclei	20		60
6			大久保茂男	高知女子大	Unexpected transparency in the scattering of fragile nuclei	20		85
7			銭廣十三	RCNP	陽子弾性散乱で見る、208Pbの中性子密度分布と中性子スキン	20		110
8			松田洋平	東北大	9Cの陽子スキン ～系統的な不安定核-陽子弾性散乱測定の始まり～	20		135
		19:00	懇親会					
9	3	10:00	土岐 博	RCNP	未定(テンソル力と高運動量and...)	30		35
10			Ong, H. J	RCNP	(p,d)反応によるテンソル力の探索	25		65
11			藤田 佳孝	大阪大	高分解能測定で見た事、更なる疑問	25		95
12			民井 淳	RCNP	N=Z核からの散乱実験とテンソル力および超前方角の準弾性散乱について	25		125
13			高階 正彰	RCNP	陽子非弾性散乱と不安定核の励起強度	25		155
14			青山茂義	新潟大	4He励起領域のクラスター散乱状態におけるテンソル力の効果	20		25
15		14:00	坂口 聡志	RCNP	中性子過剰ヘリウム同位体における陽子弾性散乱の偏極分解能測定	20		50
16			明 孝之	大阪工業大	He同位体における共鳴状態の構造	20		75
17			青木保夫	理研	重イオン用CDCC(HCTAK)の概要と今後	30		110
18			小沢 顕	筑波大	重イオン用CDCC(HCTAK)による不安定核破砕片の運動量分布の解析			110
19			高久圭二	RCNP	重イオン二重電荷交換反応と不安定核の研究の可能性	20		135
20		16:30	矢花一浩	筑波大学	TDHFによる多核子移行反応の記述	20		25
21			上坂友洋	CNS	超多重項遷移をプローブとした重イオン荷電交換反応	20		50
22			川畑貴裕	京都大	未定	25		80
23			須原唯広	京都大	AMDを用いた閾値近傍のクラスター的励起状態の研究	30		115
24	4	10:00	鷲山広平	U. Libre de Bruxelles	重イオン核融合反応における原子核間ポテンシャルとエネルギー散逸のTDHFによる導出	20		75
25			伊藤誠	関西大	中性子過剰核におけるポール遷移の増大現象	20	4午前	100
26			松本琢磨	北大	不安定核による核力およびクーロン力分解反応の系統的解析	30		135
27			萩野浩一	東北大	2中性子ハロー核の構造と反応	25		165
28			佐藤義輝	ソウル大	Neutron (sd) ³ structure in 16C	20		190
29		14:00	小川洋子	RCNP	パイ中間子交換力を用に取り扱った原子核多体系理論の構築とその記述	20	4	25
30			橋本 慎太郎	原子力研究開発機構	離散化チャネル結合法を用いた critical radius の決定と全反応断面積の系統的解析	20		50
			青木保夫	理研	今後の日本の核反応理論への提言	15		70
31			八尋正信	九大	不安定核反応の記述する新しい理論	30	4	85
32			加藤幾芳	北大	共鳴状態の部分幅の問題 – 構造と反応の統一的理解 –	35	3、4	125